

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 07015498 A

(43) Date of publication of application: 17.01.95

(51) Int. Cl.

H04M 1/274
H04M 1/02

(21) Application number: 05153345

(22) Date of filing: 24.06.93

(71) Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

(72) Inventor: ONO JUNJI

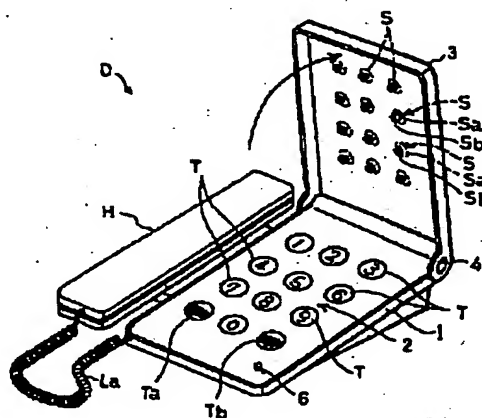
(54) TELEPHONE SET

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

(57) Abstract:

PURPOSE: To reduce the erroneous operation at the time of dialing by eliminating the need for other specific key operation than an abbreviation number when dialing operation is made by using an abbreviation dial and clearly and simply distinguishing the dialing operation by the abbreviation dial and the usual dialing operation different from the same.

CONSTITUTION: The telephone set is provided with a cover body 3 making freely opening/closing a ten-key operation panel 2 with which a dialing use ten-key T is provided, an operation means S provided to the cover body 3 to operate each ten-key T of the ten-key operation panel 2 from the upper surface side of the cover body 3 when the cover body 3 is closed and the operation means S is arranged on the upper surface side of the ten-key operation panel 2, a detection means 6 detecting the opening/closing state of the cover body 3 and a control means controlling the signal processing so as to function the ten-key T as an abbreviation dial use operation key when the closing operation of the cover body 3 is detected by the detection means 6.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-15498

(43) 公開日 平成7年(1995)1月17日

(51) Int. Cl.⁶H 0 4 M 1/274
1/02

識別記号

A

庁内整理番号

7190-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平5-153345

(22) 出願日 平成5年(1993)6月24日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 小野 純司

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工
株式会社内

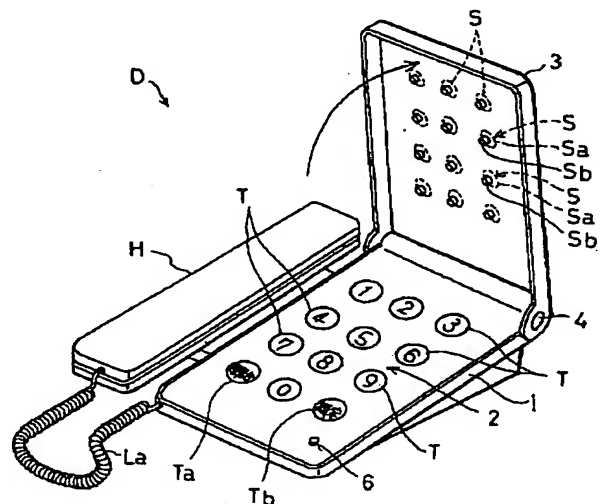
(74) 代理人 弁理士 中井 宏行

(54) 【発明の名称】 電話機

(57) 【要約】

【目的】 短縮ダイヤルを利用した発呼操作を行うときに短縮番号入力以外の特定のキー操作を行う必要を無くし、短縮ダイヤルによる発呼操作とこれとは異なる通常のダイヤル発呼操作とを簡易に且つ明確に区別させて、ダイヤル発呼の過誤操作を減少させる。

【構成】 ダイヤル発呼用のテンキーTが設けられたテンキー操作面2を開閉自在とするカバー体3と、このカバー体3が閉じられてテンキー操作面2の上面側に配置されたときにそのテンキー操作面2の各テンキーTをカバー体3の上面側から操作可能とすべくカバー体3に設けられた操作手段Sと、前記カバー体3の開閉動作を検知するための検知手段6と、この検知手段6でカバー体3の開動作が検知されているときに前記テンキーTを短縮ダイヤル用の操作キーとして機能させるように信号処理制御を実行する制御手段とを備えている。



場合には通常のテンキー操作によるダイヤル発呼を行うことができる。一方、カバー体を閉じてこのカバー体をテンキー操作面の上面側に配置させた状態において、このカバー体に設けられた操作手段を利用してカバー体の上面側からテンキー操作面の各テンキーを押圧操作するときには、このカバー体の閉状態が所定の検知手段で検知されていることにより、前記テンキーが短縮ダイヤル用の操作キーとして機能することとなる。即ち、カバー体を閉じた状態にすれば、短縮ダイヤルでの発呼操作を行うときに、例えば「#」キーを操作したり、或いはテンキーとは別の短縮ダイヤルキーを余分に操作する必要がなくなり、短縮番号をそのまま入力するだけで所望の相手方へのオートダイヤル発呼を実行することができる。従って、かかる短縮ダイヤル発呼を行うときのキー操作が簡略化され、誤操作の防止が図られる。また、カバー体を開閉させることにより一組のテンキーを通常のダイヤル発呼用と短縮ダイヤル用に切り替える構成であるから、テンキー以外の操作キーを別途追加して設ける必要もなく、テンキー以外の操作キーの個数が増大するようなことも適切に回避することができる。

【0010】請求項3に記載の本発明に係る電話機においては、上記請求項1の場合とは逆に、カバー体を開けた状態でテンキーを操作するときには、このテンキーが短縮ダイヤル用の操作キーとして機能する。そして、カバー体を閉じた状態では、かかるテンキーが通常のダイヤル発呼用のテンキーとして利用することができる。従って、請求項1の場合と同様に、やはり短縮ダイヤルでの発呼操作を行うときには、カバー体を開けた状態でテンキーを操作して所望の短縮番号を入力するだけでよいから、キー操作が容易で、誤操作防止が図られると共に、テンキー以外の余分なキーを設ける必要もない。

【0011】

【実施例】以下、本発明の実施例について図面を参照して説明する。図1は本発明に係る電話機Dのカバー体を開けた状態の一例を示す斜視図、図2は図1に示す電話機Dのカバー体を閉めた状態の斜視図、図3は電話機Dのハード構成の一例を示すブロック図である。この電話機Dは、ハンドセットHを備えた電話機本体部1の上面側にテンキーTを設けたテンキー操作面2が形成され、また電話機本体部1の一端側には、テンキー操作面2を開閉するためのカバー体3が支持部4を回転支点として回転自在に設けられた構成である。

【0012】ここで、カバー体3は、電話機本体部1の上面側全体を隠蔽できるサイズに形成されているが、このカバー体3はテンキーTが設けられたテンキー操作面2のみを部分的に開閉できる小サイズに形成してもよい。また、このカバー体3には、テンキーTの各キーに対応する複数の操作スイッチS・・・が設けられている。これらの各操作スイッチSは、カバー体3の表面側に配置されるキートップSaの下部に、カバー体3の裏面側

から下向き状に突出する押圧部Sbを連設したものである。そして、これらの各操作スイッチSは、図2に示すようにカバー体3が閉じられたときには、電話機本体部1の各テンキーTの上方に配置され、この状態でキートップSaが押圧されると、押圧部Sbが下降してその下方に位置するテンキーTの1つのキーが押圧されるように構成されている。尚、操作スイッチS・・・のキートップSaの表面には、テンキーTの個々に対応する数字「0」～「9」が適宜表示されている。

【0013】電話機本体部1の上面側にはカバー体開閉検知スイッチ6が設けられている。このカバー体開閉検知スイッチ6は、カバー体3が閉じられたときにこのカバー体3によって押圧されることによりスイッチ接点が開動作又は閉動作するもので、このスイッチ接点の開閉により、カバー体3が開状態と閉状態の何れであるかが検知される。但し、本発明ではこのような接触スイッチ型の検知手段に限らず、これ以外の様々な検知手段、例えば光学的又は電磁的な検知手段を適用可能である。

【0014】図3において、この電話機Dは、既述したテンキーTやカバー体開閉検知スイッチ6等からの信号入力となされるCPU等で構成された信号処理部11、及びこの電話機Dのシステムメモリとして機能するROMやRAMを備えた記憶部12を具備している。また、これら以外として、マイクMCやスピーカSPを備えたハンドセットHを用いての通話を実行可能とする通話回路13、フックスイッチ14、ダイヤラー15、及び着信検出回路16等も具備している。尚、同図中、符号Lは電話回線である。

【0015】上記のうち、信号処理部11は、本発明の制御手段に相当するもので、次のような制御を行うように構成されている。即ち、この信号処理部11は、カバー体開閉検知スイッチ6でカバー体3の開状態が検知されているときには、テンキーTを通常のダイヤル発呼用の操作キーとして機能させるもので、オフフック状態（フックスイッチが開状態）でテンキーTのキー操作がなされると、その操作の都度ダイヤラー15からそのテンキー入力された数値の対応するダイヤルパルスが発生させるべく制御するように構成されている。また、かかるカバー体3の開状態時には、テンキーTを操作して短縮ダイヤル登録も実行できるように制御すべく構成されている。具体的には、例えばテンキーTのうち、「開始」と表示されたテンキーTaが操作された後に、テンキーTのうち例えば「1」のキーが操作され、その後一連の電話番号（例えば「064352290」の電話番号）がテンキー入力されてから、「設定」と表示されたテンキーTbが操作されると、これら一連に入力されたデータがRAMに記憶され、短縮番号「1」に対応する正式の電話番号として「064352290」のデータが登録される。

【0016】一方、信号処理部11は、カバー体開閉検

(6)

特開平7-15498

【図4】

